

平成26年度「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」成果報告書

団体名	北海道
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校名	障害種
北海道	北海道高等盲学校	視覚障害

2 研究テーマ

視覚障害特別支援学校におけるICT機器を活用した効果的・効率的な指導内容・方法の在り方に関する実践的な研究

3 研究の概要

北海道における支援機器等教材を活用した効果的な学習支援を普及・促進することを目的として、視覚障害特別支援学校（事業実施校である北海道高等盲学校、以下「指定校」という。）を中心に、ICTや支援機器の技術的支援を行う外部専門家と教員の十分な連携のもと、一人一人の視覚障害の状態に応じた、支援機器等教材の選定方法、指導方法、また、それらを踏まえた個別の指導計画の作成・活用、支援機器等教材に関する情報提供等の充実を図った。

○ 対象とした生徒の障害の状況

在籍する生徒の視覚障害の状態が、全失明、低視力、視野障害、複視、羞明、色覚異常など、多種多様な見えにくさを有する生徒が同じ学級に在籍していることから、一斉指導を行う上で、一人一人の見え方の状態に配慮した指導や支援が求められる。

また、見え方の状態に対応して、教科等で使用することができる教材は、点字教科書、拡大教科書など2、3種類と限られており、学習内容の確実な定着を図るためには、見え方の状態に応じた多様な教材・教具の準備が必要となる。

○ 支援機器等教材の選定と盲学校授業支援システムの開発

生徒の見え方等に関する実態把握や生徒の見え方、発達の段階等に応じた最適なタブレット端末を選定するため、タブレット端末のアクセシビリティ、ソフトウェア及びコンテンツの有効性について整理した対応表を作成し、各教科指導を通して活用事例を集積した。また、タブレットを用いた授業における支援の充実に向け、ICTや支援機器の技術的支援を行う外部専門家の活用により、教材の作成や管理及び閲覧を行うための機能、閲覧時に端末を使用する生徒自身が視力等の視覚障害の状態に合わせて文字サイズやレイアウトなどを変更できる機能などをもつ「盲学校授業支援システム」の開発を行うことができた。

4 研究の成果及び課題

指定校で、ICTや支援機器の技術的支援を行う専門的指導員と教員の十分な連携のもと、一人一人の視覚障害の状態に応じた支援機器等教材の選定「生徒の見え方等に関する実態とコンテンツ等の対応表」、プログラム「盲学校授業支援システム」の開発を行うとともに、先進的な取組を行っている学校等（2か所）への視察を行った。また、生徒の視覚障害の状態に応じて効率的・効果的に情報収集の困難性を補完するため、生徒一人一人の視覚障害の状態と眼疾病に対するタブレット端末の機能とアプリケーションの対応表を作成し、各教科の授業を通して活用事例を集積するとともに、校内の支援機器の活用に係る環境整備を行った。

今後は、他の義務盲学校へのタブレット端末の貸出しや、指定校における研究内容を、他の義務盲学校での活用の仕方、その効果の検証及び効果的であった活用事例の集積等を行う必要がある。